

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 10 月 4 日 (水)

開会午後 1 時 0 分、閉会午後 1 時 17 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 鳥海 清司

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 村上 美也子

5 番 藤重 佳代子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 山下 康二

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課主幹 有沢 徹

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 0 分、渋谷教育長が開会を宣する。議事に先立ち、10 月 4 日付けで教育委員に就任した鳥海委員から新任の挨拶をした。

1 委員の席次の決定について

くじにより委員の席次を決定した。

1 番 鳥海 清司

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 藤重 佳代子

5 番 村上 美也子

教育長 渋谷 克人

2 議決事項

議案第 35 号 平成 30 年度富山県立学校募集定員等の決定の件
県立学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議事

○議決事項について

議案第 35 号関係

〔町野委員〕

・これを見ると普通科だけ減っているような気がするが、要求に応じた形でこうなっているのか。

〔教育長〕

・普通科と職業系の学科の比率の問題があり、66%と 34%をそれぞれキープしていくという形。議会でも元々の 7:3 教育に戻るのかという質問があったが、今の 66%と 34%という範囲の中で見たときに、普通科のほうが少し率が高いので、この部分を踏まえて普通科を減らすという形になった。もう一つ、総合教育会議のときにも有識者から意見をいただいたが、地域産業の担い手としての面から、職業系の学科については維持どころか拡張していただきたいという方が多くいらっしゃった。それも大切なご意見だと思う。そういったことも踏まえながら対応していくこととなる。

〔町野委員〕

・職業科は、一つの専門で一学級しかないから、何%か減らすなら普通科を減らしていくしかない。普通

科なら他にもあるから調整が可能である。

〔教育長〕

- ・職業系の学科を見直すときには、例えば同じ学科を持つところが2箇所以上あれば調整可能だが、それを仮になくすわけにはいかないの、どこかの科と合併して、定員20名ずつのクラスにするというような変則的なやり方を取るしかない。そのため職業科を見直すことは基本的には難しいが、比率を維持するためには、このまま子どもたちが少なくなり続けるようであれば、いつかの時点で見直しをする必要があると考えている。

〔町野委員〕

- ・どこかの時点で、例えば機械電気科というように、二つの専門学科を一緒にして、クラス全体で受ける授業と、機械と電気の二つに分かれてやる授業を設けるというやり方をしていくなど、工夫しないといけない。

〔教育長〕

- ・極力40人のロットで物事を考えていくというのが基本だと思うが、現実には、高岡工芸高校、氷見高校ではご指摘のとおり形を進めている。

〔鳥海委員〕

- ・それぞれの地域で、新川地区であれば3校、富山地区であれば4校、高岡、砺波はそれぞれ1校ずつが、1学級減の対象になっているが、どういう基準でこれらの学校が選ばれたのか。

〔教育長〕

- ・トータルで言うと、その時々生徒数から検討しており、その次に、高校入試の第一次の志願状況で、その時点でどれだけ欠員があったかという、人気の問題も加味している。それから、毎年5月に行っている進路希望調査結果の結果も踏まえながらやっているというのが全体の基本的な流れ。そのなかで、記載の表だけでは少し分かりにくいので、簡単に言うと、新川、高岡、砺波については大きな学校、クラス数の多い学校から減らしている。富山だけはそれとは違ったやり方を取っている。というのは、富山の場合、今回始めて中学卒業者数が減った。これまでは増えていたのである。例えば去年、同じこの教育委員会の場でご審議いただいたが、富山西高校を1クラス増やしている。そういった形から、平成22年以降の前期高校再編でクラスを増やしてきたところを中心に減らしていくという形をとっていく。他の地区ではそういったことはやっていなかったため、大きなところから順番に減らしていくという形になるが、富山の場合は増やしてきたところを優先していく。加えて、水橋高校だが、ここはクラスを増やしていない。ただ、前期再編以降、今年の春まで8回の入試があったが、8回中4回、一次募集の段階で定員割れを起こしている。二次募集があるので結果的に穴は埋まるのだが、その点も加味しながら、今回水橋高校も対象とした。

〔藤重委員〕

- ・別紙2の県立学校専攻科というのは、高校や定時制、通信制というものの中でいうと、どういう枠組みになるのか。

〔教育長〕

- ・高校のさらに上の学校としてみていただければ良いと思う。一番分かりやすいのが、富山いずみ高校の看護科であり、専攻科という、いわゆる正看を目指していくというところになる。他にもいくつかあるが、さらに上を目指していくというもので、大学、短大、専門学校等というのと同じカテゴリーとなる。

午後1時17分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。